

令和8年度 鳥取大学入学者選抜試験問題

(後期日程)

総 合 問 題

(地域学部 地域学科 人間形成コース)

(注 意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は4ページ、解答用紙は3枚(下書用紙は3枚)である。
指示があってから確認し、乱丁、落丁、印刷不鮮明の箇所等がある場合は、ただちに試験監督者に申し出ること。
3. 解答は解答用紙(横書き)に記入すること。
4. 下書、メモ等を試みる場合は、下書用紙又は問題冊子の余白を利用してよい。
5. 解答用紙を持ち帰ってはならないが、問題冊子(及び下書用紙)は必ず持ち帰ること。

問題Ⅰ 以下は哲学者の鷲田清一氏が書いた文章である。文章を読んで、問1、問2に答えなさい。

この部分については、著作権の都合上、HPで公開しておりません。

この部分については、著作権の都合上、HP
で公開しておりません。

出典

鷺田清一著『生きながらえる術』講談社、2019年、157頁-160頁。

問1 この文章の主旨を300字以内で述べなさい。

問2 この文章をもとに、これからの教育のあり方について、あなたの考えを600字以内
で述べなさい。

問題Ⅱ 近年、本人が選ぶことができない条件によって子どもの学力に差が生じる「学力格差」に対する懸念が高まっている。本人が選ぶことができない条件の例として家庭の「社会経済状況 (SES)」が挙げられる。SES とは、その家庭の所得や親の学歴等を総合し、得点化したものである。ここでは、SES 得点に基づき検討対象世帯を 4 等分し、低いほうから Lowest、Lower middle、Upper middle、Highest にグループ分けした。以下の表は、小学生の学力や学習活動、家庭環境等についての資料である。以上を踏まえ、以下の間に答えなさい。

問 表 1～4 から読み取れることに基づき、小学生の「学力格差」について説明し、その課題解決における学校の役割について、あなたの考えを 600 字以内で述べなさい。

表 1 中の数字は、2017 年度学力・学習状況調査における小学 6 年生の国語及び算数の結果 (平均正答率) である。なお、各教科について、A は主として知識に関する問題、B は主として活用に関する問題を意味する。

表 2 について、レジリエンス (resilience) とは、回復力を意味する。ここでは、SES の低い家庭環境において高い学力を示している児童を「レジリエンスを発揮した児童 (Resilient students)」と定義する。

この部分については、著作権の都合上、HPで公開しておりません。

表3及び表4中の網掛けは Resilient students と Non-resilient students で5%以上の差がみられることを意味する。なお、表3中の「両方の内容を勉強している」については5%以上の差がないのに網掛けされているが、原著の表現のまま掲載した。

この部分については、著作権の都合上、HPで公開しておりません。

出典：耳塚寛明・浜野隆・富士原紀絵（編著）学力格差への処方箋：[分析] 全国学力・学習状況調査、2021、勁草書房。

出題にあたり、一部改変をおこなった。

問題訂正

鳥取大学
一般選抜（後期日程）
地域学部地域学科人間形成コース
科目：総合問題

<問題訂正>

3 ページ 問題Ⅱ

「表2 検討対象者の区分（網掛け部分）」の
網掛け部分は以下のとおりである。

- ・ A層（Upper middle 以上）
- ・ Resilient students
- ・ Non-resilient students